

V 研究の成果と今後の課題

本年度は、「算数科における豊かな発想と考える力の育成～副教材の活用事例研究を通して～」のテーマのもと、全学年で K&tem（筑波大学附属小学校・算数研究部/編）を活用し、その効果的な活用方法の研究・実態調査、授業実践を行ってきた。

そこで、次のような成果と課題が明らかになってきた。

1, 成果

(1) 副教材（アイテム）を活用しての授業実践

ア：問題文の語句を確実に理解させた。

- ・発展的な問題は、問題文の語句が児童にとって理解しにくい面があった。そこで、わかりにくい語句を丁寧に説明し課題解決を行ったことで、抵抗感なく課題に取り組めるようになった。

イ：発展的な問題をグループ等の少人数で課題解決し、説明し合う場を設けた。

- ・課題に手のつかなかった児童も、課題解決の手がかりをつかむとこができた。
- ・問題解決できた児童にとっても班員に説明することで理解を深めることができた。
- ・説明できるようにすることで、筋道立てた考え方ができるようになってきた。



ウ：豊かな発想の育成

- ・副教材(アイテム)の授業では、子どもの知的好奇心を刺激するのに効果的であった。
- ・数や図形の規則性や並び方の美しさに気づく目を養っていく意味で有意義であった。

(2) 副教材（アイテム）を活用状況の調査研究から

- ・学年ごとに個人差に応じて取り組み、上位の子もやりがいを感じていた。
- ・副教材（アイテム）の内容は変化に富み、子どもは意欲的に取り組んでいた。
- ・教師にとって今まで以上に教材研究を深めることができた。

(3) 食農教育

- ・栽培の苦労を知るとともに、収穫の喜びも味わった。
- ・収穫した野菜を調理し、食物への関心を高めることができた。
- ・作物への愛着がわき、食べられなかった野菜が食べられるようになった児童がいた。

2, 課題

- ・発展的な問題は、児童の考えを発表し合う時間の確保と教材研究。
- ・副教材(アイテム)の内容理解と効果的な活用方法の工夫改善の検討。
- ・基礎・基本の徹底と考える力を伸ばす授業のありかた。
- ・グループ学習での話し合いをクラスで共有化する在り方と改善。